

東京都障害者通所活動施設職員研修会

2021年 事業計画

2021. 6. 1

年間テーマ

《多様なニーズへの適切な支援と新たな課題への挑戦》
～今、自分たちの支援方法を再考して、新たに創り出す工夫～

2020年1月にわが国で初感染者を出した新型コロナウイルス感染症は、その影響を全世界に及ぼすまでに拡大し多くの犠牲者を出すとともに、グローバル化の負の側面を一段と浮かび上がらせる結果となりました。ワクチン接種がようやく始まることになりましたが、この先、鎮静化する見通しも定かではありません。長く続く行動制限が、人々のいらだちとストレスの増加で、もはや限界まで来ている感もあります。障害福祉業界に目をやれば、福祉施設の多くは、当事者の状況と施設自体の経営状況等鑑み、それぞれに工夫した運営を続けていますが、ほとんどの施設で介護報酬からの収入減で苦しんでいます。クラスター防止のために、また、感染者が発生したときに、日夜を問わず、必死に奮闘している仲間がいます。私たちも含めエッセンシャルワーカーと呼ばれる人たちが、心無い非難を受けるニュースを目にすると、やりきれない思いになりますが。しかしながら、常に現場で働いている私たち支援者は、創意工夫のもとで、現場力を高め、一人ひとりの支援力アップとチーム力で切り拓いていくしかありません。

また、私たちが忘れてはならない津久井やまゆり園で起こった障害者大量殺傷事件から4年がたちます。裁判が結審し極刑が言い渡されましたが、この問題が内包する深い闇は解明されないままにあり、事件の風化が心配です。神奈川県がやろうとしている現地での再建案についても様々な異論が起きています。

このような状況の中で、私たち通所施設の現場では、契約制度が施行されて以降度重なる制度改定が行われ、利用者の状態像が変化し、ニーズが多様化するなかで職員がその対応に追われています。もはや想定外という言葉が許されなくなりました。自然災害やパンデミック等、次々と起こる事態に振り回されています。

幼児期、学齢期をとりまく養育環境も激変し、放課後等デイサービスや児童発達支援事業等の定型サービスの一定程度の充実は、家族の意識も変容させました。措置時代に、使える社会資源がほとんどない中で子育てをしてきた世代と、契約時代にサービスの利用を前提として子育てをしてきた世代とのギャップは、当事者の生活実態や支援者の働き方にも影響を与えています。また、障害福祉分野の問題は「障害」へのアプローチにとどまらない社会との関係によって捉えられる問題として認識されるようになってきました。例えば、虐待、ご本人とご家族の高齢化、強度行動障害といわれる方々への支援、そして長年追い求めてきた地域自立生活に向けた取り組みなど、私たちが高度な専門性を発揮しつつ、複数の関係者や関係機関と連携して対応しなければならない課題が山積しています。新型コロナの出現は、その対応策も同時に考慮しつつ、日々の支援方法も、柔軟な思考が必要になっています。

都通研の今年度のテーマは、《多様なニーズへの適切な支援と新たな課題への挑戦》としました。私たち支援者には、お一人お一人の当事者の誕生から終末までのステージを視野に入れ、今優先される支援は何かを考えながら取り組んでいくこと求められています。また、コロナ禍での支援方法の工夫や、そのために少しでも役立つような実践的な研修を今年度も企画し、皆様にご提供できるよう努めてまいりたいと考えています。

都通研は、研修会による収入を財源として運営する任意団体です。2020年度は新型コロナの影響で、第1回と第2回の研修会が中止となりました。各回の参加費と会員施設からの会費収入が都通研の収入の全てであります。過去7年間の研修参加者は、ほぼ年間400名前後で推移していましたが、2020年度の研修参加者総数は255名でした。例年と比較すると37%減です。青少

年オリンピックセンターでの開催を断念し、オンライン研修会を3回、4回、5回、と実施したのが最悪の収支にはなりませんでしたが、年度予算としてはマイナスです。オンライン研修会の実施に当たっては、事務局のしっかりとしたバックアップが欠かせないものでした。都通研の安定した運営には、事務局のサポートが重要です。

2019年度は業務委託費が25%多くなりました。通信運搬費も各社値上がりが続いています。参加者を増やすことが収支の面では必須です。2021年度の研修会開催が、オリンピックセンターで可能かどうかは分かりませんが、オンライン研修会になりましても多くの方々の参加をいただければ幸いに存じます。

都通研は、チャレンジ精神を発揮して、これからも充実した研修会を企画立案していきます。また、この運営に携わるフレッシュな「志」ある運営委員を募っています。我こそはと思われる方はぜひ当会の運営にご参加ください。お待ちしております。

2. 年間計画

(1) 通常の研修会

- ・年間5回、1日を通した研修会を開催する。
- ・会場（国立オリンピック記念青少年総合センター研修室）、開催形式は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により変更される場合があります

回	テーマ	講師・担当	実施日・形式
1	「支援」について 1. ドキュメンタリー映画視聴 「生きるのに理由はあるの？ ～津久井やまゆり園事件が問いかけたものは～」 2. 監督講演 3. グループディスカッション、鼎談	講師：澤則雄氏（監督）	6/1（火） [オンライン]
2	発達障害（自閉症）をとらえなおす 1. 基調講演 2. 質疑応答	講師：坂井聡氏	7/28（水） [オンライン]
3	with コロナ時代の私たちの支援 1. 基調講演 2. 実践報告	講師：調整中	9/22（水）
4	重症心身障害児者の支援の基本と実践～食を考える～(仮)	講師：下川和洋氏 大高美和氏	11/6（土）
5	ライフステージに沿った個別支援計画を考える（仮）	講師：綿 祐二氏	1/26（水）

(2) 東社協知的発達障害部会との合同学習会

- ・年間2回、半日の研修
- ・実施日時 1回目 9月10日（金）
2回目 12月18日（土）
- ・講師 未定
- ・会場、開催形式 未定

- (3) 東社協知的発達障害部会、都通研及び日本精神発達遅滞研究会共同開催による特別研修会
- ・実施日時 7月18日(土)
 - ・講師 未定
 - ・会場、開催形式 未定

- (4) 運営委員会
毎月1回 年間12回開催

- (5) 総会
新型コロナウイルス感染防止のため対面形式での開催はなく、運営委員会で審議代行とする。

- (6) 運営委員研修会(春合宿)

- (7) 関連団体との研修会の共同開催
4団体共催研修会

3. 会費

〔施設会員年会費〕

3,000円(1施設)

〔個人会員年会費〕

1,000円

〔研修会参加費〕

会 員：4,000円

非 会 員：5,000円

利用者家族：3,000円

学 生：1,000円

大学院生：1,000円